

# 天理市埋蔵文化財センターだより Vol.22

## 平成28年度夏の文化財展

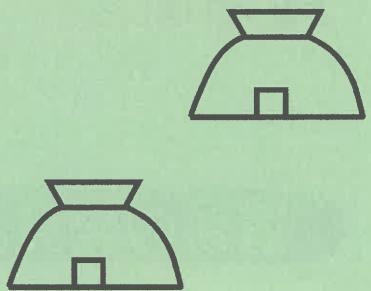
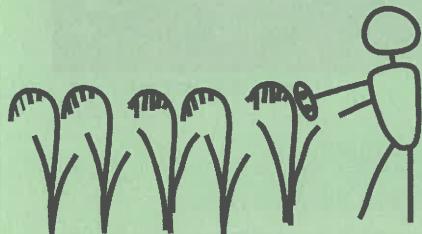


平等坊・岩室遺跡発掘98年

### 弥生のムラの成り立ち

平成28年

7月2日(土)~7月31日(日)



#### ◎平成28年度 夏の文化財展

平等坊・岩室遺跡発掘98年

#### 弥生のムラの成り立ち

平成28(2016)年7月2日(土)~7月31日(日)

※ 9:00~17:00

※ 月曜日、7月18日(月・祝)、19日(火)は休館

会場：天理市文化センター1階展示ホール

#### ◎文化財講演会と展示解説

平成28年7月31日(日) 14:00~16:30

天理市文化センター1階文化ホール

天理市教育委員会文化財課がこれまでに実施した市内の遺跡の発掘調査により、多くの成果が得られてきました。それらの成果の一部について、平成18(2006)年度より夏と冬、年2回の文化財展示をおこない、市内の埋蔵文化財について理解を深めていただけるように努めています。

今回の「センターだより」は久しぶりの弥生時代特集です。市内最大規模を誇る弥生時代集落である、平等坊・岩室遺跡を取り上げます。これまでの35次に及ぶ発掘調査を振り返り、集落のはじまりから成立の様子を紹介します。

## 遺跡の紹介

平等坊・岩室遺跡は天理市平等坊町と岩室町に広がる、弥生時代中心とした集落遺跡です。布留川によって形成された扇状地の末端に立地しています。遺跡東側に隣接して前栽遺跡、北側の東大寺山丘陵西麓には長寺遺跡、さらに南西側には弥生大集落の唐古・鍵遺跡が存在しています。平等坊・岩室遺跡は盆地東部最大の拠点集落として発展しました。

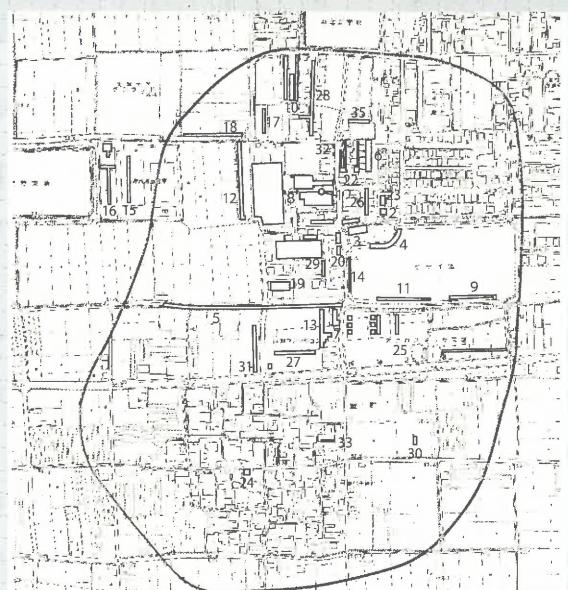
集落やその周辺からは縄文時代晚期の突帯文土器が出土しており、この地域には遅くともこの時期から人々が住み始めていたようです。弥生時代前期後半には最初の環濠が成立し、中期に入ると集落を幾重にも環濠が巡るようになります。環濠は埋没と掘削を繰り返しながら、後期まで集落の周りを巡っていました。



前期の環濠（第8次調査）

中期の環濠に棄てられた土器  
(第8次調査)

## 遺跡の発見と発掘調査の歴史



平等坊・岩室遺跡は調査以前から土器や石器が採集されており、遺跡の存在が想定されていました。

第1次調査は大正7年(1918年)に佐藤小吉氏によりおこなわれました。この調査で遺跡の存在を確認し、弥生時代の集落遺跡であることがわかりました。そして金関丈夫氏、白木原和美氏による踏査で、遺跡の範囲が想定されました。その後は奈良県による発掘調査が第6次調査までおこなわれました。第7次調査からは民間開発や個人住宅建設の増加が契機となり、天理市による発掘調査がおこなわれるようになりました。現在までに35次に及ぶ発掘調査が実施されています。



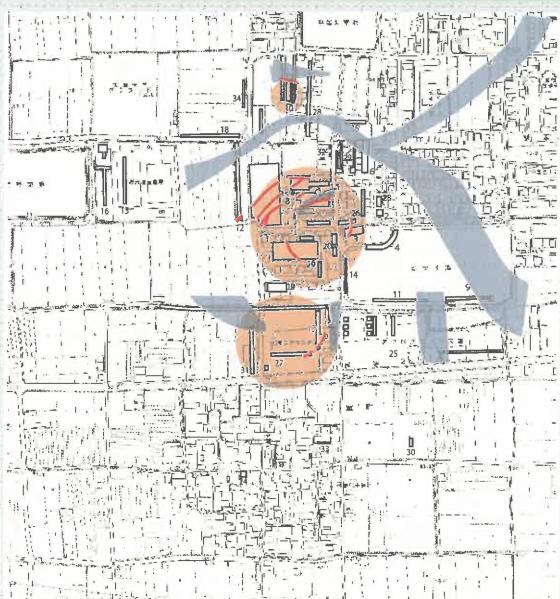
前期から後期の環濠  
(第8次調査)



作業風景（第26次調査）

## ムラのはじまり

前期



集落のはじまりは、東に隣接する前裁遺跡との関係がうかがえ縄文時代晚期にまでさかのぼるようです。弥生時代前期になると、河川によって形成された沖積地上に小規模なムラがいくつか形成され始めます。前期前半段階では、第29次調査で初現期の環濠が確認されており、北東の第26次調査の成果と合わせて、最初の居住域が集落北東の微高地上に形成されていたと考えられます。その後環濠は外側に広がっていき、前期の後半には環濠が成立します。



前期後半に成立した環濠  
(第8次調査)



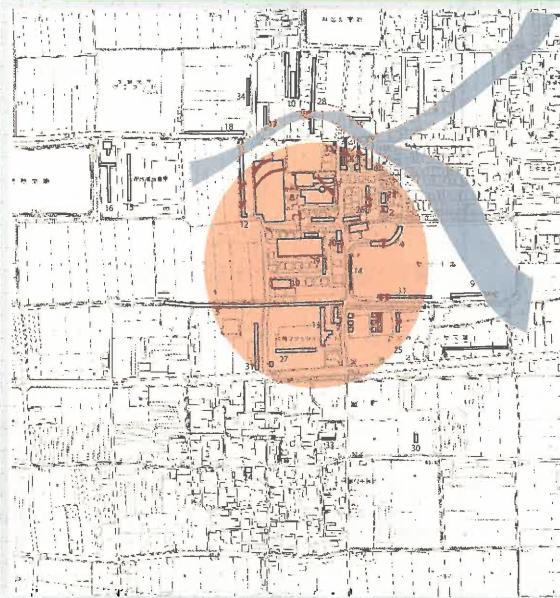
環濠に棄てられた土器  
(第8次調査)



彩文土器  
(第31次調査)

## ムラの成立

中期前半



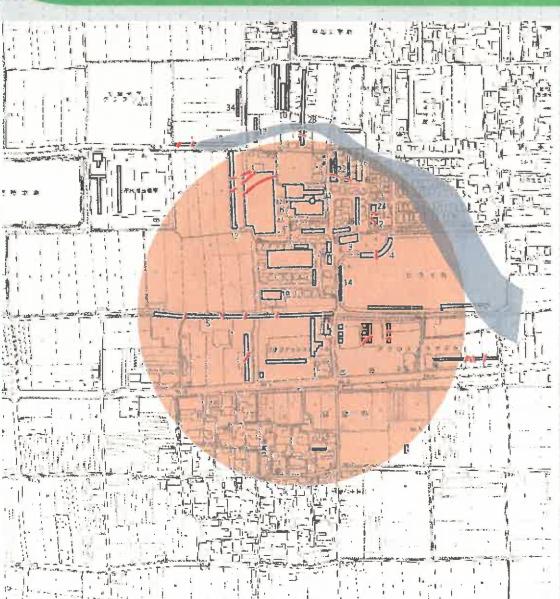
中期には、初現期の環濠の外側と内側の数か所に点在していたムラは統合され、集落域中央の微高地上に居住域を形成するようになりました。それに伴い集落域が拡大し、多重の環濠帯が形成されはじめます。集落の周囲を巡っていた環濠はその位置を徐々に外側へと広げていきます。



中期の環濠  
(第8次調査)

## ムラの発展

中期後半



中期後半になると、環濠はさらに外側を巡るようになります。多重環濠が成立し、集落域はこの頃最大となりました。第28次調査がおこなわれた集落北側では、方形周溝墓が見つかっており、墓に供えられたと思われる土器が見つかっています。集落の北側には墓域が広がっていましたようです。中期末になると、環濠内の微高地周囲を区画する溝が掘削され、これが後に出現する方形区画の前身と考えられています。



方形周溝墓の供献土器  
(第28次調査)



井戸枠に転用された土器  
(第25次調査)



石包丁集積遺構  
(第26次調査)

## その後のムラ

後期に入ると、集落の領域は北へ大きく広がります。環濠の配置も変化し、後期になって新たに掘削もおこなわれました。前期の後半から集落の周囲を巡っていた環濠も、後期の末には人為的に埋め立てられその機能を停止し、環濠集落は終わりを迎えました。

また後期末になると、環濠に加えて集落の内側に大溝に囲まれた方形区画が出現しました。この方形区画は、当集落における有力首長層の出現を示すものと考えられます。



弥生後期の環濠出土土器  
(第8次調査)

## 出動！発掘現場レポート!!

### 平成27年度下半期の調査

天理市教育委員会は平成27(2015)年度上半期に発掘調査を3件（うち前年度からの継続調査1件）件実施しました。ここではその成果をいち早くお知らせいたします。

#### ■柿本寺跡第6次調査

櫟本公民館の新築工事に伴い、櫟本町の奈良県北部農林事務所跡地で発掘調査をおこないました。調査では奈良時代の井戸や溝、柱穴などが見つかったほか、井戸内から「毛」の墨書のある須恵器が出土しました。

#### ■都市計画道路別所丹波市線事業に伴う調査〔前年度から調査を継続〕

平成25～26年度の豊田トンド山古墳の発掘調査に続き、その東側でおこなった豊田狐塚古墳の発掘調査でも未知の横穴式石室が発見されました。石室内からは鏡や金銅装馬具、玉類などさまざまな副葬品が出土しました。6世紀中頃に築造されたと考えられます。

#### ■小路遺跡第8次調査

都市計画道路北大路線事業に伴い、小路町内で発掘調査をおこないました。調査地は遺跡の東端にあたり、土師器や須恵器の破片が出土しています。

平成27年度の調査成果は  
今年度の冬の文化財展で  
展示するよ！



■平成27年度下半期の調査遺跡



■別所丹波市線事業に伴う調査  
豊田狐塚古墳の横穴式石室

発行◆天理市教育委員会 文化財課  
天理市埋蔵文化財センター  
〒632-0017 奈良県天理市田部町320  
Tel・Fax 0743-65-5720  
印刷◆富光株式會社